

古いものが好きで、それまで住んでいた築45年の中古住宅にも愛着があったNさん。建て替えを考え始めたきっかけは東北の大地震。堪え難い冬の寒さと安全性を考えてのことだった。「娘家族と一緒にあちこちの展示場に行ったんですが、どれも無駄なものがいっぱいで、気に入った家が見つかりませんでした。そんな時、鈴木工務店さんのことを聞いてモデルハウスに伺ったら、とにかくシンプルで無駄がないの。それと、家を見に行く时必须グズっていた多感な孫が、ご機嫌だったんです。不思議でした。私は茅葺の可憐庵に惚れ込んだんです。」

緩い勾配の坂の上に建つN・T邸。広々としたリビングダイニングには奥様専用の書道スペースとソファ、食卓が整然と配されている。床と天井の木の風合いが、優

しく部屋を包み込む。大きな窓には庭の緑と太陽の光、そして元気に走り回る愛犬のグラ。断熱遮熱性能の高い「Low-Eガラス」と障子でカーテンはない。ガラスの効果と、太陽の熱を取り込み空気を循環させるOMソーラーシステムの効果で、1年を通し、快適な空間が実現されている。

「とにかく、驚くほど冬暖かくて、夏涼しいんです。エアコンは補助的に使う程度。あと、空気が綺麗。生徒さんたちが皆、そうおっしゃるの。」そう語る奥様はご主人が仕事に出かけた後、書道を教えている。膨大な作品や道具類で部屋を埋め尽くしていたのが以前の家だった。それをリビングに収納し、圧迫感を感じさせない部屋の間仕切りとした。大きな作品を書くときはソファを移動させてスペースを作る。重い家具の移動も木蠟で手入れされた無垢の床だからこそ。「墨で汚れるからコーティングして欲しいって言ったんですが、絶対ダメ、木は呼吸しているから」と反対されたんです。でも無垢にして良かった。とっても気持ちいいし、これからどんな味わいが出てくるのも楽しみです。」

2階には共働きの娘さん夫妻と

## 趣味と生活、親世帯と子世帯 どちらも両立させた豊かな住まい

ライフスタイルも生活リズムも異なる親世帯と子世帯が一つ屋根の下で、共に豊かに、かつ快適に暮らすためには――。  
1887年創業、老舗の鈴木工務店が提案した2世帯住宅を紹介します



1. 1階のリビング。奥に書道スペース、左側にはダイニングがある 2. 開放感溢れる2階のリビング 3. Low-Eガラスで外からは中が見えにくい 4. 書道スペースの収納庫は天井部分を開けリビングに一体感を 5. 障子を閉めれば静謐で落ち着いた空間に 6. シンプルなフォルムの外観。軒下が長い2階ベランダは雨が降っても殆ど濡れない

小学1年生と保育園に通う育ち盛りのお孫さん。ロフトのある天井の高いリビングには遠くまで視界が広がる大きな窓が。窓際にはシンクから一直線に続くカウンターが作られ、食事も宿題も友達が遊びに来た時も大活躍の優れものだ。来客時にはテーブルを置くが、普段は子ども達が走り回れる広さが確保されている。

無駄がなくシンプルで、綺麗な空気の木の家だ。それぞれの空間で、それぞれの生活を楽しむ快適に暮らしている。近すぎず、遠すぎない。唯一、困ったことがあるという。「快適すぎて家から出たくなくなるの。」そう語る奥様をご主人が優しく見つめていた。



株式会社 鈴木工務店  
195-0053 東京都町田市能ヶ谷 3-6-22  
tel 042-735-5771 fax 042-735-3323  
www.suzuki-koumuten.co.jp